

関係人口を核としたシティプロモーションの検証プロジェクト

— STEP (1) 関係人口の見える化 (現状分析) —

進捗報告 R2年度のデータ整理からみえた方向性について

報告書 資料版

大正大学地域構想研究所 阿南支局

関係人口の課題

- ◆ここ数年、阿南市では「あなん〔地域好循環〕総合戦略」の一つとして、**定住・移住そして「関係人口」施策に力を注い**てきた。
大正大学でも**「関係人口」が地域にもたらす効果を地域創生の重要なファクター**と捉えて、各地で専門的な調査研究を行っており、**国の第2期「地方創生」で「関係人口の拡大」が視点の柱に盛り込まれた**ことから、各自治体の取り組みが大きく注目されている。
- ◆阿南市では「野球のまち」「SUPタウン」「移住交流センター」「地域おこし協力隊」など、**地域資源を活かした施策で「関係人口」創出拡大に鋭意取り組んできた**が、今一度、継続的な改善の礎にするべく、PDCAサイクルの観点をもって**阿南市の「関係人口」の現状を把握する必要**があると考えます。
阿南市と大正大学との受託研究事業として、これまでの「関係人口」に関する資料、アンケートや聞き取り調査など学術的なデータやモデルを基に、**動態や傾向、ニーズなどを検証・分析**することで、**阿南市にどういった人や企業を呼び込むべきなのか、若者のUターンを活性化するには何をすべきなのか・・・が可視化**され、明確なシティプロモーション戦略が定まり、阿南市の新たな未来へのステージが見えてくる。そしてまた高校生が関係人口についてどう考え、どう関わっていくのかも未来への重要な指針となる。

以上のことから、「関係人口を核としたシティプロモーションの検証」と「高校生ミライ会議」を受託研究の柱として、「“若者の意見”と“関係人口の見える化”で創り出す阿南のミライ戦略」の企画運営を実施していくものである。

受託研究の 背景

事業概要

- ◆阿南市市所有及び公表データ、アンケート調査、関係人口対象者などの聞き取りを基に分析及びモデル検証を行い、「高校生ミライ会議」での若者の意見、大正大学生の地域実習での実践活動と連動しながら、3年後をめどに「関係人口」を核としたシティプロモーション戦略」の策定を目指す。

※本年度は新型コロナウイルスの影響により、当初予定の通りには調査は進み難い部分もあったが、それを鑑みての3年計画を進める。

【年次計画】

1年目（令和2年度）→現状分析、指標化

- ・阿南市来訪者の実態把握、これまでの効果測定、関係人口の実態調査など ⇒ **STEP（1）関係人口の見える化**
- ・高校生ミライ会議での若者の意見集約（オンライン会議で計画）

2年目（令和3年度）→ターゲティング、必要な活動を明確化

- ・首都圏での阿南市の認知度やニーズ調査（既存イベントの活用）
- ・関係人口受け入れのモデル活動調査（大正大学実習と連携）
- ・高校生ミライ会議での若者の意見集約

3年目（令和3年度）→戦略の策定

- ・関係人口を核としたシティプロモーション戦略の策定
- ・戦略の先行的なモデル事業の実践
- ・高校生ミライ会議での若者の意見集約

年次 計画

STEP (1) 関係人口の見える化 (現状分析)

【目的】

「関係人口を核としたシティプロモーションの検証プロジェクト」は、阿南市にどういった人や企業を呼び込むべきなのか、若者のUターンを活性化するには何をすべきなのか・・・が可視化された明確なシティプロモーション戦略が定まり、阿南市の新たな未来へのステージの方向性を明確にしていくことを目的とする。そのために、初年度はSTEP (1) 関係人口の見える化 (現状分析) を行った。具体的に実施したことは2点あり、それぞれの目的は以下になる。

① 移住相談窓口データの整備

現在移住意向が顕在化している層として、実際に「移住相談窓口」に来られている方々の相談データの整備を行った。現状では、ご相談者の希望や依頼内容に対応するための対応履歴として保管しているものである。しかしながら、将来的にこの貴重なデータをニーズ分析とサービス提供のための顧客データという位置づけで活用することが必要ではないだろうか。この視点に立ち、本年度は同データが顧客データという位置づけで利活用可能なものか、また利活用する際の課題などを洗い出すことを目的として整備を行った。

② SUP大会参加者アンケート実施

今後、可視化された明確なシティプロモーション戦略を定めるためには、地域外の人々の観光や移住、また関係人口などに対するニーズ調査と分析が必要不可欠である。次年度以降、幅広い層を対象にした調査を実施し、その上で同戦略を見極めるため、本年度はアンケート調査のトライアルという位置づけで、関係人口のモデル事業の一つである「SUP大会」にた参加者を対象としたアンケートを実施し、今後の調査における課題検討を行った。

③ 戦略策定に必要なデータ整備 (提案)

以上の現状分析から、可視化された明確なシティプロモーション戦略に必要なデータ整備の具体的な手法と可能性を提案し、実現可能性を検討するたたき台として活用してもらうことを目的に提示する。

目的と概要

参考資料



- ✓ 関係人口研修__創出と深化政策
- ✓ ★移住相談受付データ__210126時点 マスター
- ✓ SUP大会参加者アンケートデータ

① 移住相談窓口データの整備

【現状】

- ✓ 丁寧な対応とヒアリングにより、データ保管状況が非常に優れている
- ✓ 移住促進に必要な情報がとれる状態になっている
- ✓ **有数のデータ保有量と質であると考えられる**



レベルアップが可能なポイント

- ✓ 移住促進に必要な指標の再設計（経年で変化してきているため）
- ✓ 相談者にも担当者にも負担の少ない「**顧客データベース**」構築が可能



これにより

- ✓ 移住意向の高い「関係人口」の属性分析が可能
- ✓ 人口政策の成果の数値と内容の両方を経年で追える
- ✓ 継続した「関係人口」との関係をつなぐ役割ができる

関係人口 深化政策のためのベース資料となる

移住相談窓口保有データ

参考：★移住相談受付データ_210126時点 マスター

日付	氏名	性別	年齢	職業	相談状況	移住意向	関係人口
2023/01/26	田中 太郎	男	35	会社員	相談中	あり	あり
2023/01/26	佐藤 花子	女	42	主婦	相談済み	あり	あり
2023/01/26	鈴木 一郎	男	28	学生	相談中	あり	あり

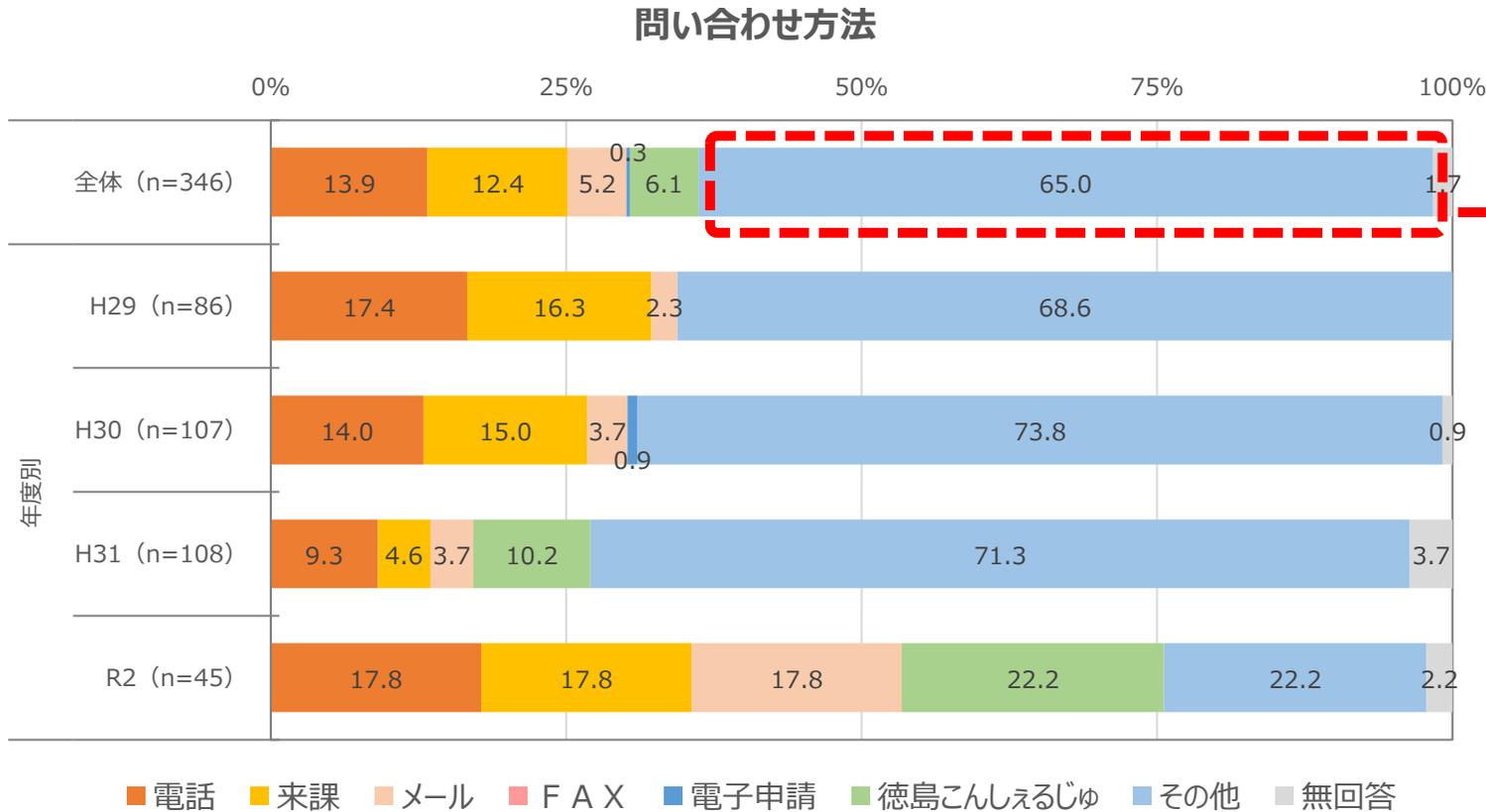
➤ 現在のデータ保管 全346件

平成29年（86件）
平成30年（107件）
平成31年（108件）
令和2年（45件）※9月まで

➤ 保有指標

問合せ方法
性別
年齢
職業
状態（相談の状態）
移住関心場所
移住検討地域
移住検討地域の移住支援団体からの情報提供
興味のある情報
移住の際の家族形態
子どもの人数
移住先での希望就労形態
移住先での希望物件
希望する広さ（坪）
提供資料名

◆ 移住相談窓口データ：現在のデータから読み取れることと課題



保有データ

問合せの種類 1/2

ここ数年、「電話」と「来課」の2種類が多い傾向が続いている。対して、R2年は「メール」の増加傾向が特徴的である。「その他」の詳細が記述形式で保管されていたため、詳細分析可能。

【課題】

- 時代の変化、出稿媒体の変化により、問合せ形式が変化。そこに対応する必要あり。
- 上記により、データの性質が異なってきているため、最終的な窓口と顧客のファーストコンタクトを区別した方が良い
- その他を自由記述にしているため、表現統一性が課題



データ整備でわかること

- ✓ 効果の出ているフェア、媒体
- ✓ 媒体別の移住希望者の属性

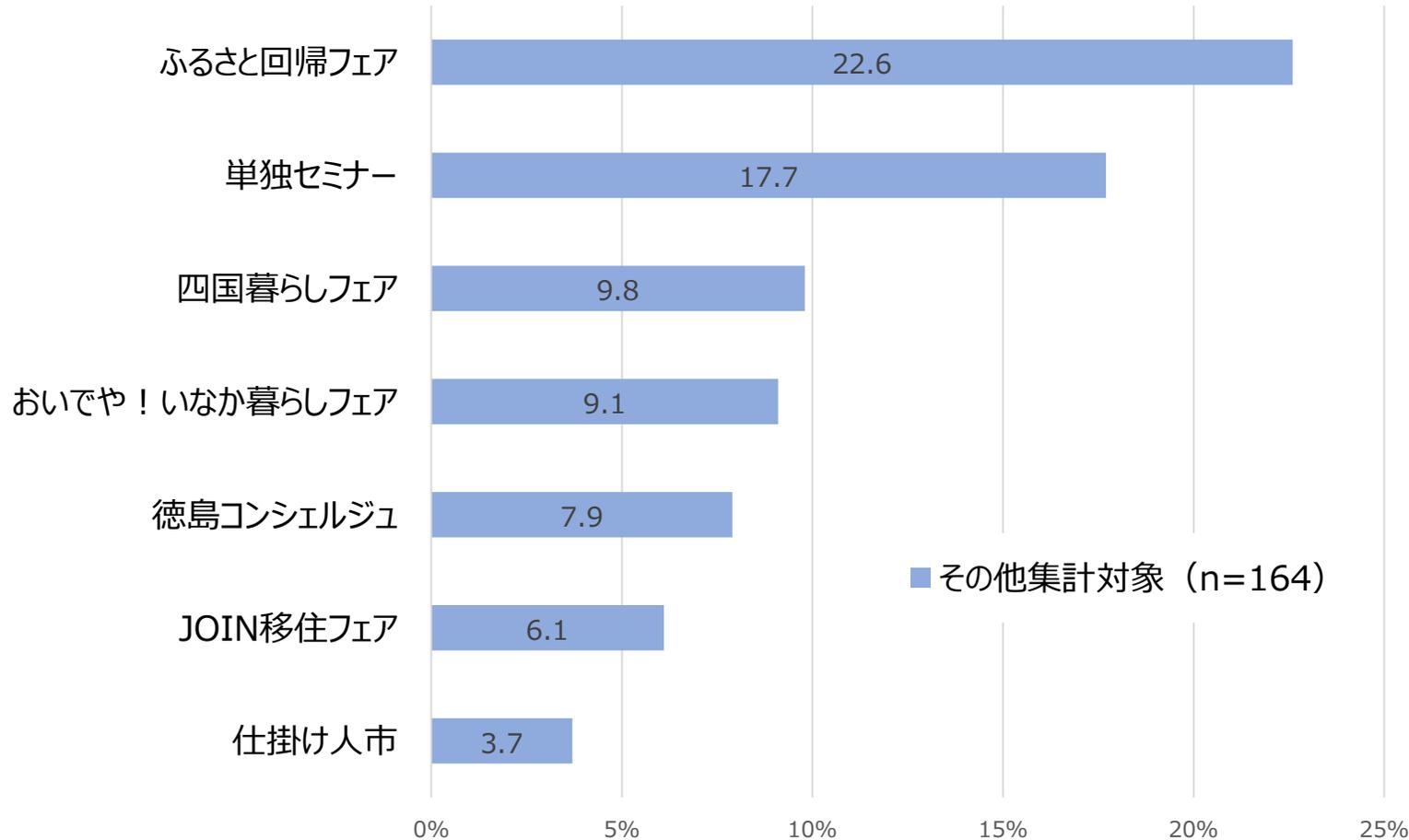
その他詳細は次ページ

◆ 移住相談窓口データ：現在のデータから読み取れることと課題



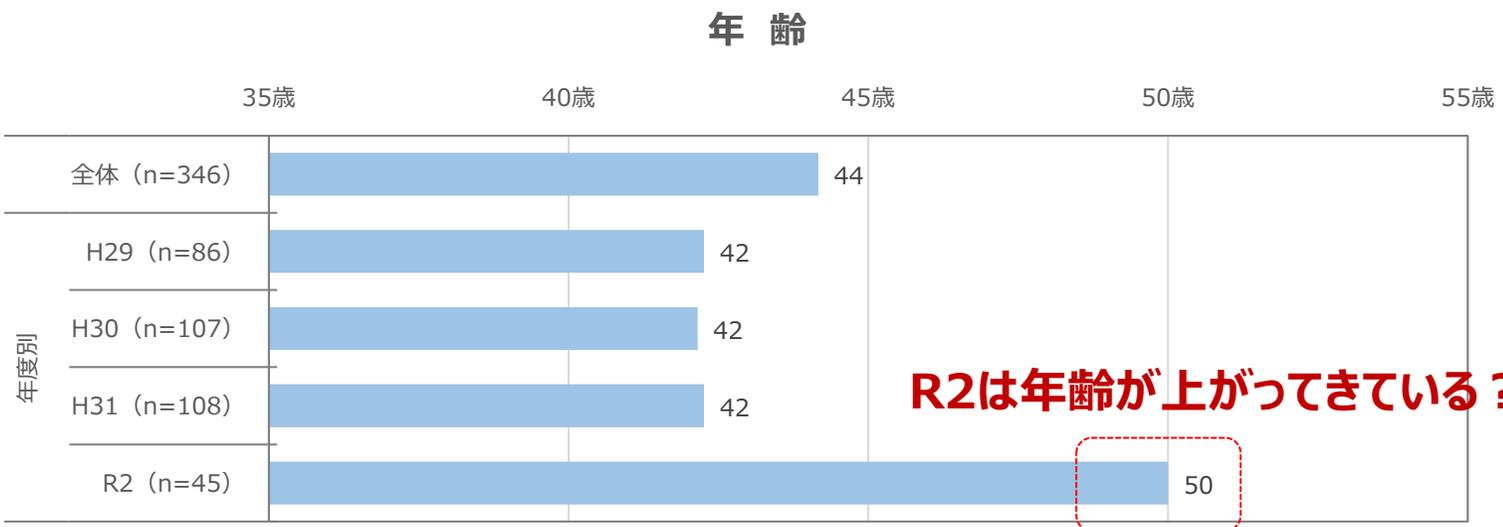
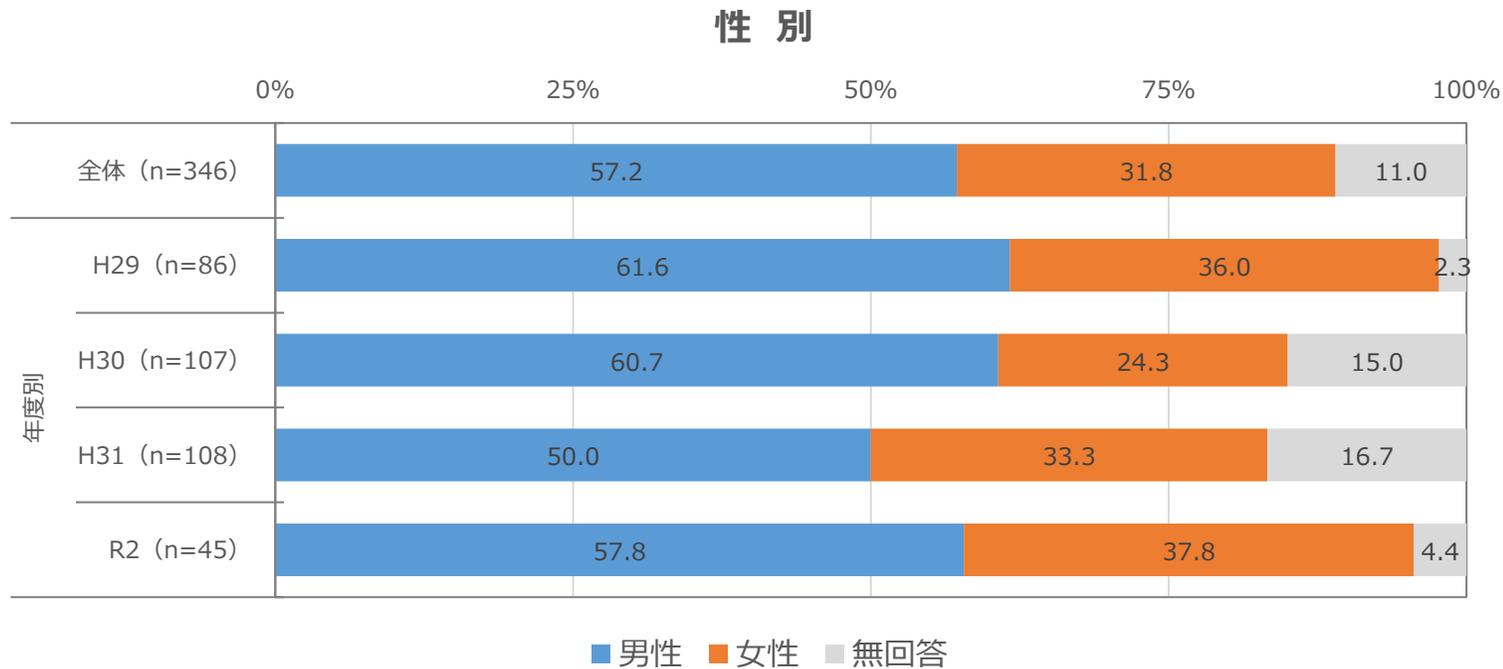
その他 詳細

「その他」の詳細に、
相談者のコンタクト媒体が列記されており
データ整備することで媒体効果を測ることが可能



保有データ
問合せの種類
2/2

◆移住相談窓口データ：現在のデータから読み取れることと課題



保有データ 基本属性 1/2

年齢、性別、家族形態、この基本属性を明確にデータで取得することで、阿南市へ移住を検討している属性のペルソナがわかる。

【課題】

- 無回答の割合が高いこと →担当者による相談者の負担軽減、プライバシー尊重意向によるものと考えられ、データの収集方法を検討する必要がある。
- 他の設問のクロス集計の基本となる項目のため、なるべくデータが100%揃うのが望ましい

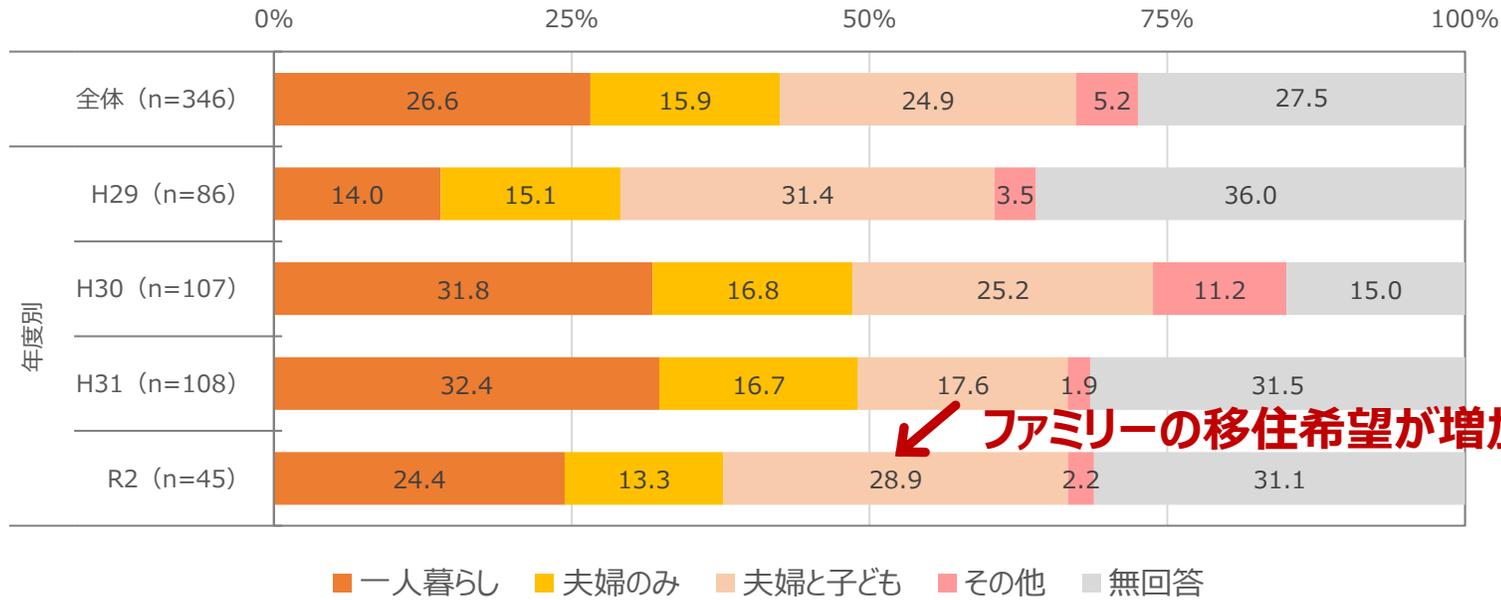


データ整備でわかること

- ✓ 属性別のコンタクトポイント
- ✓ 属性別の生活ニーズ
- ✓ 属性別に効果的な媒体

◆移住相談窓口データ：現在のデータから読み取れることと課題

移住の際の家族形態



← ファミリーの移住希望が増加？

保有データ
基本属性
2/2

ペルソナ分析 阿南市移住希望者の像

ビジネス（転職）系



ファミリー層



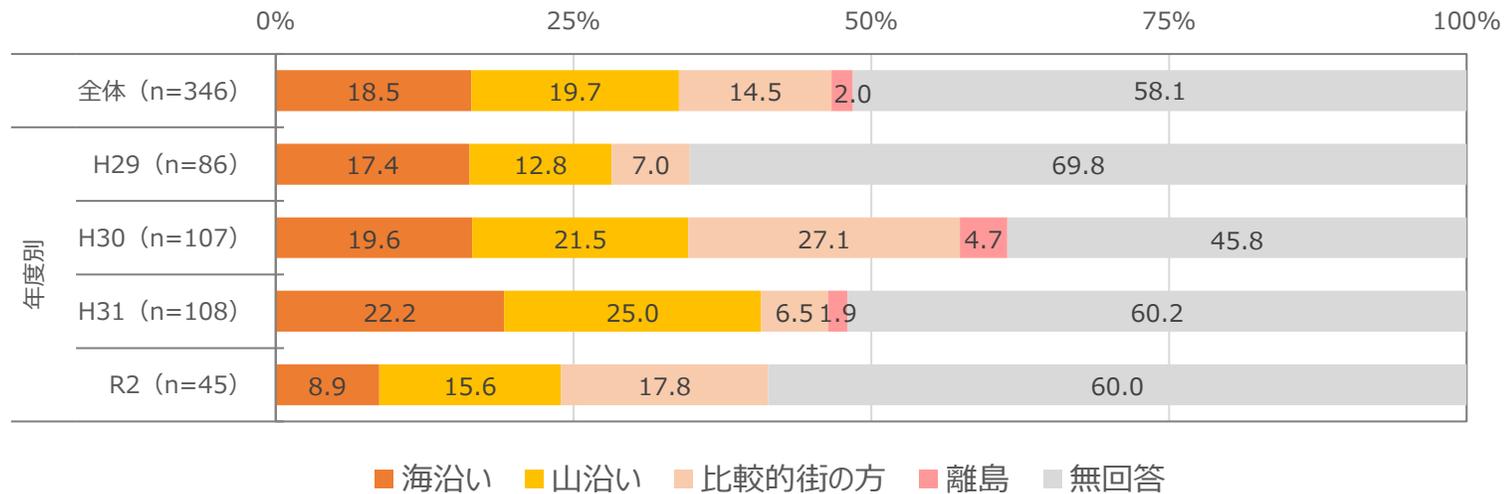
年配ご夫婦層



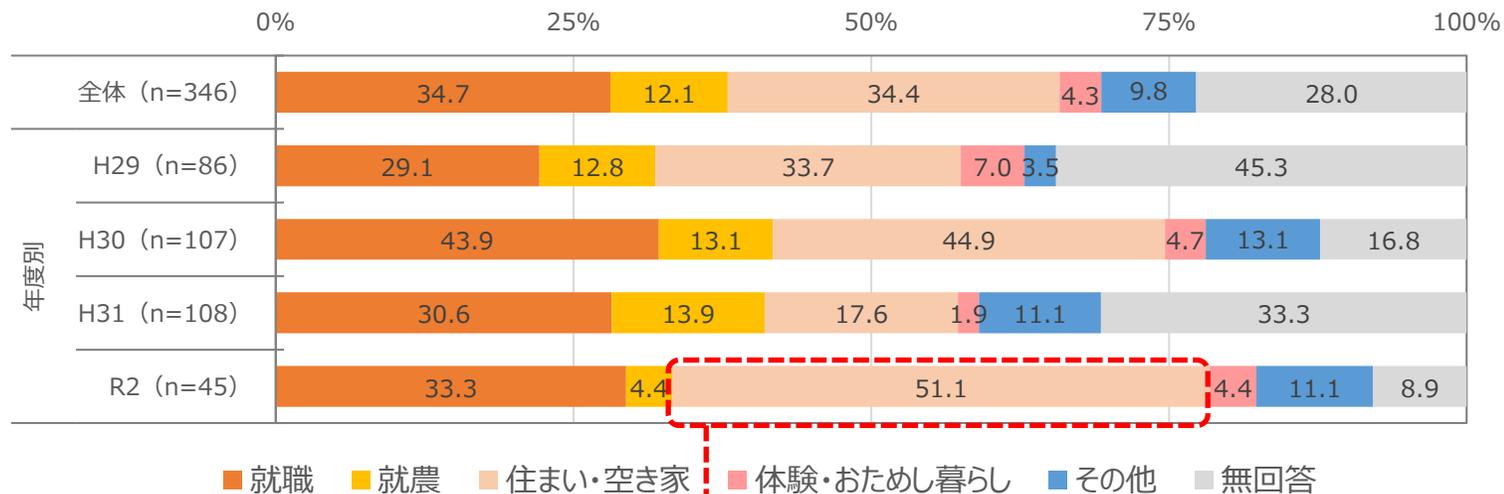
データの統一性を測ることで
阿南市移住希望者の属性傾向とその数値的
割合がわかる
⇒経年変化も追える

◆移住相談窓口データ：現在のデータから読み取れることと課題

移住の関心場所



興味のある情報



R2は就農の割合が減っている？
 Or 「住まい空家」が高いことで
移住意思確定後の相談が増加？

保有データ
ニーズ
 1/2

移住の関心場所、興味のある情報など、ニーズ把握に有益な情報がとれている。尚且つ、月別の経緯を把握できているため、同月の過去年比較が可能。

【課題】

- 担当者による精緻な自由記述欄が、大変有益な情報の山となっている。この箇所のテキスト分析の労力をいかに削減できるか。
- 担当者の属人的判断にゆだねるため、項目を精緻に検討し、統一性の確保が課題



データ整備でわかること

- ✓ 移住環境整備のニーズ把握
- ✓ 政策での重点ポイントの見極め

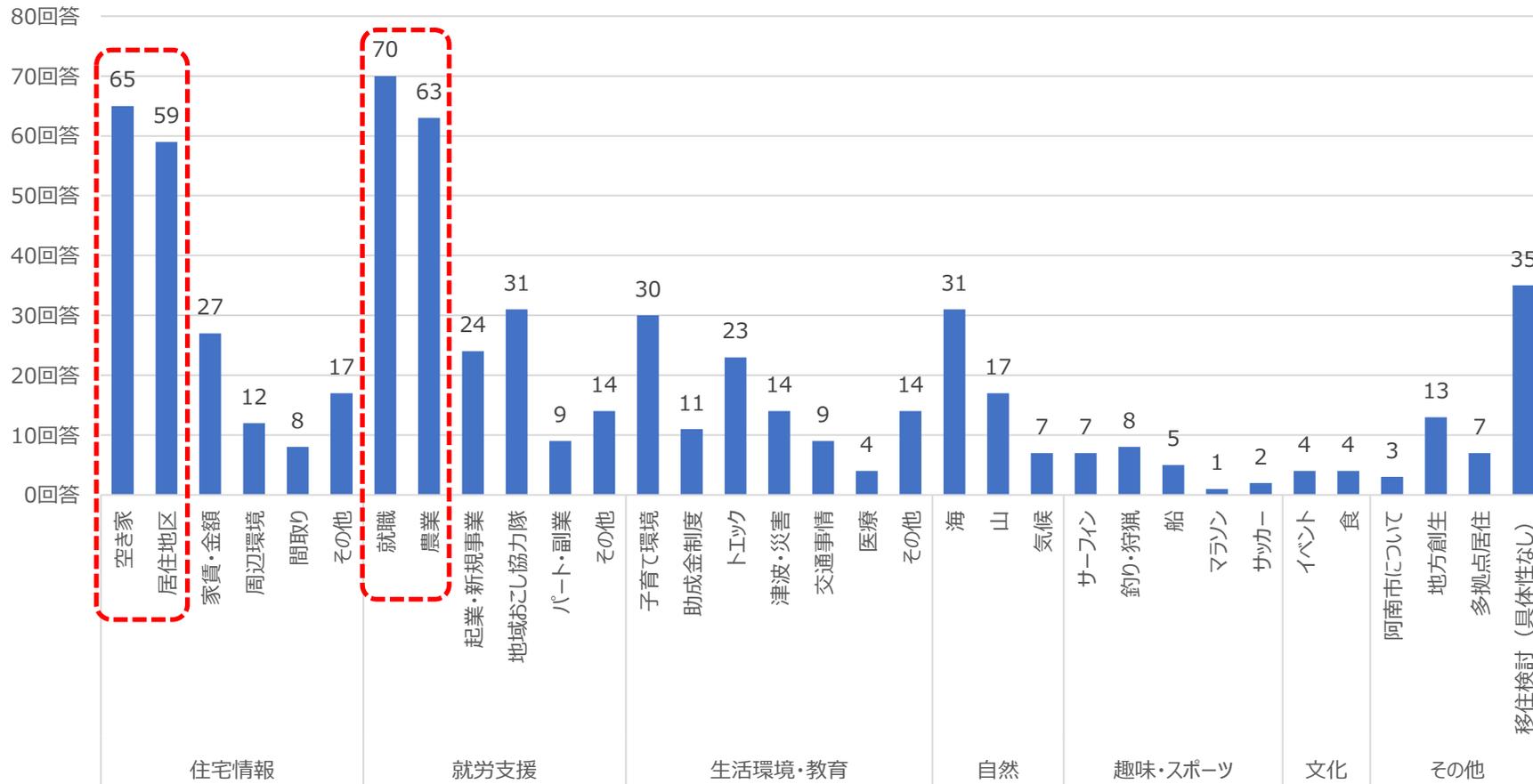
◆移住相談窓口データ：現在のデータから読み取れることと課題

自由記述からの
ニーズ把握

空家と就職・就農、居住地区が興味上位
→経年の変化はあるか？ 要再分析

保有データ
ニーズ
2/2

自由記述 頻出キーワード



②SUP大会参加者アンケート

【アンケートの背景】

- ✓ 継続的な取組みを行うために ⇒取組みの効果を測定していく必要性
- ✓ しかし、定まった測定方法が確定できていないという現状

【アンケートの目的】

関係人口創出・深化の取組みの効果について、中長期で実施できる効果測定方法を確定していくことを目的とし、本調査では指標の検討のためのアンケートを実施した。

【アンケートの実施状況】

SUPによる関係人口創出・拡大事業として、国際大会招致に向けた初めてのSUP大会が阿南市淡島ビーチで開催され、114名（県外72名）が参加。当日、参加者を対象に「阿南の来訪歴、認知度、今後の関わり方、移住の可能性」など、関係人口をテーマにしたアンケートを実施した。

アンケートはWEB方式とし、大正大学の実習生がQRコード及び抽選プレゼントを盛り込んだフライヤーを配布して協力を呼びかけ、参加型の楽しいアンケートを実施することができた。



アンケートの流れ

参考：★SUP大会アンケート_作業用_rawdata_1026

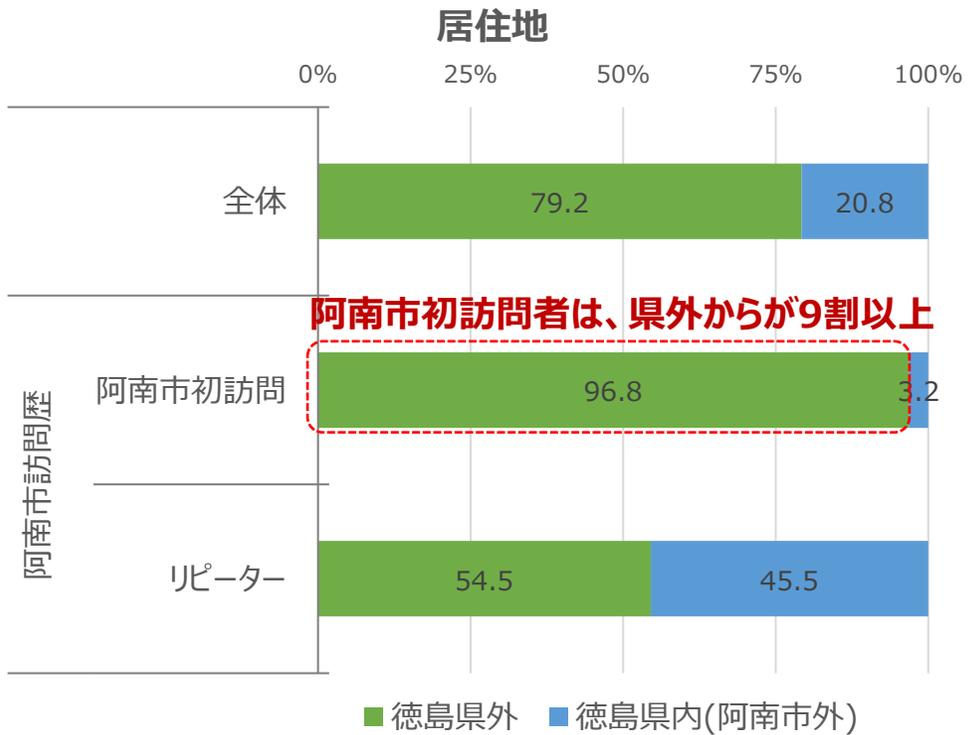


- 実施日 2020年10月25日
- 配布数
（※参加者人数からの推計値）
- 回収数 53（約46.5%）

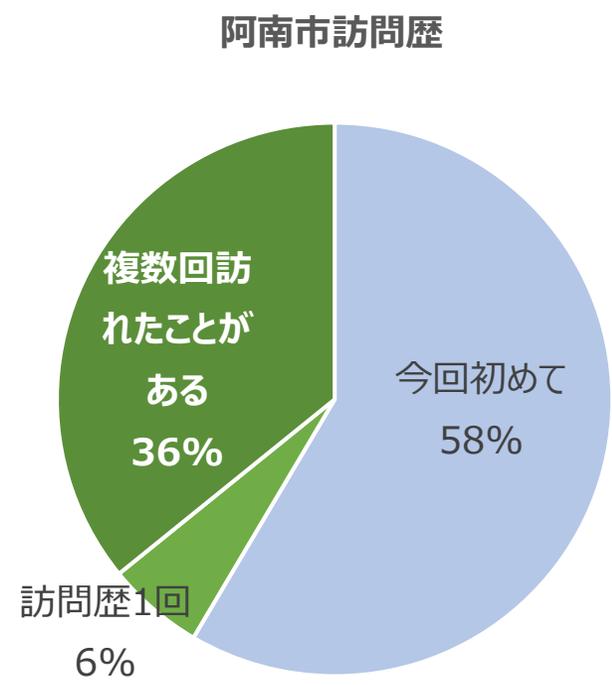


◆ SUP大会参加者アンケート：現在のデータから読み取れることと課題

テーマ型イベント（今回のSUP大会）の阿南市誘致効果



阿南市初訪問者は、県外からが9割以上



大会誘致効果 1/2

SUP大会というテーマ型イベントでの、訪問者誘致効果を検証する



【このアンケートから見てきた具体的な改善ポイント】

- ✓ **全体回収数**が少ないため、効果などについては断定できない
- ✓ **アンケート回収方法**について、統計的に有意となる方法が必要。現時点ではサンプル数をなるべく多くするための回収になっている（今年度はそれが目的であるから、良しであるが）
- ✓ **他のイベントとの比較**、単純な観光客との比較などが行えていないため、SUPイベントの特徴とまでは断定できない。今後、比較データを収集していくことで解決。

(テーマ性、イベントの性質によるが)

➔ **県外からの訪問客誘致に効果的である可能性**がある

⇒ 今後、**イベントごとに測定することで、特性が明らか**になる

◀◀◀ **関係人口深化or創出の見極め**

◆ SUP大会参加者アンケート：現在のデータから読み取れることと課題

テーマ型イベントの媒体牽引力

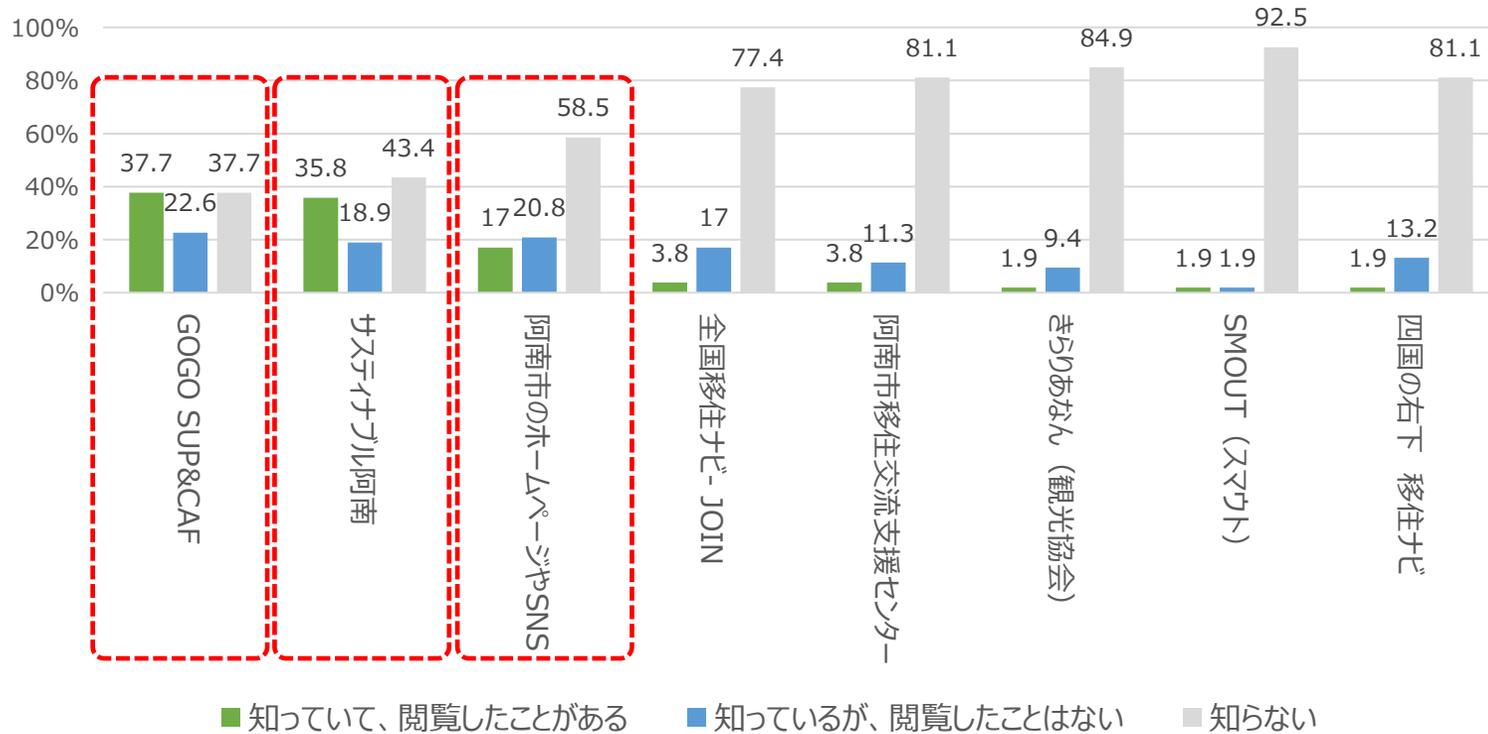
テーマ型イベント参加者に届く媒体は？

⇒ **テーマ型媒体のみを活用**する傾向か？
(至極当然な結果)

次いで多い媒体

⇒ **テーマ型媒体が情報連携している媒体**

媒体別 活用度・認知度



大会誘致効果 2/2

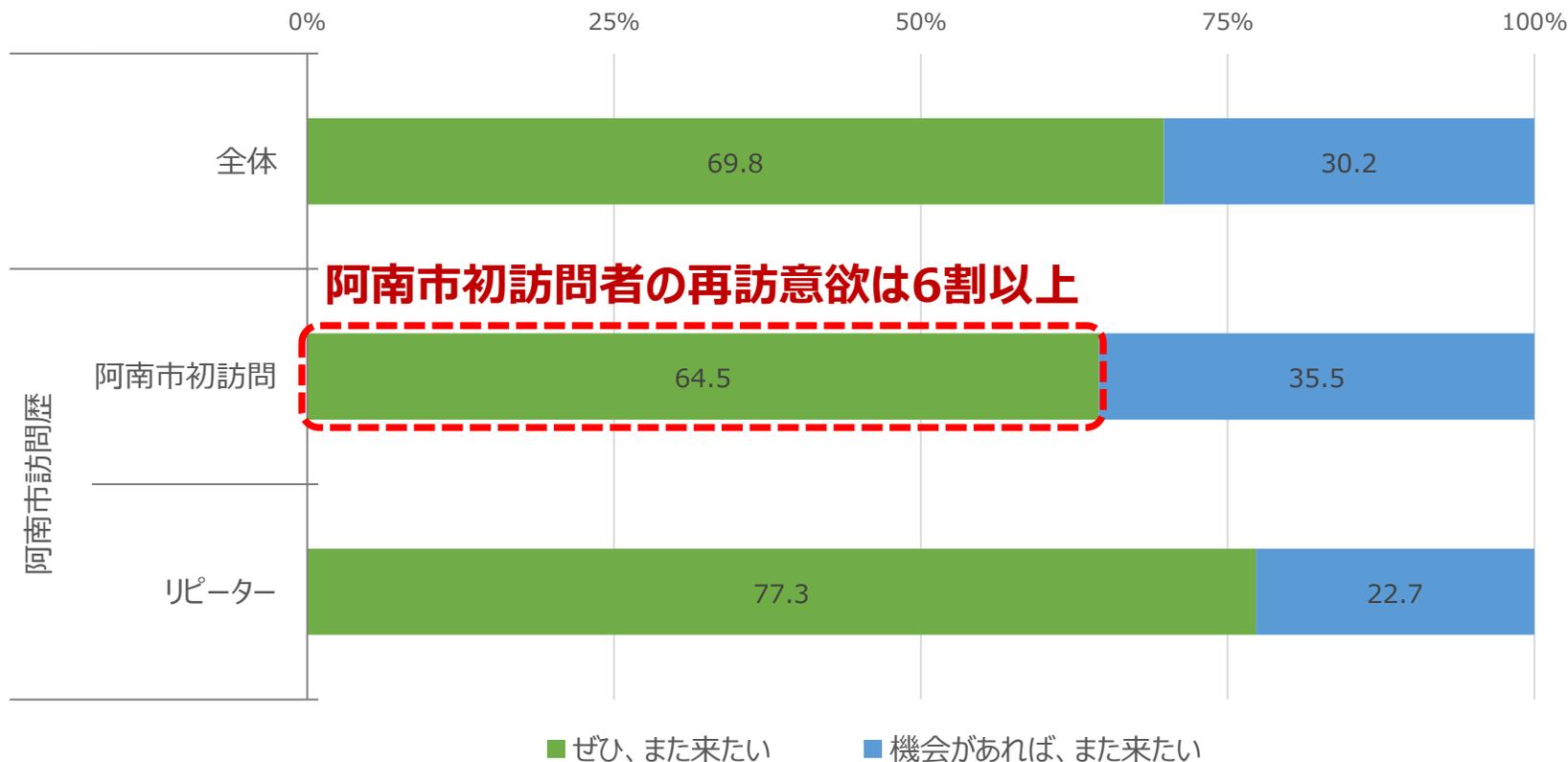
➔ **テーマ型イベントの媒体による阿南市全体の告知効果が
高い可能性がある**

関係人口創出政策に効く

◆ SUP大会参加者アンケート：現在のデータから読み取れることと課題

初訪問者はリピーターとなるか？

再訪意欲



阿南市初訪問者の再訪意欲は6割以上

訪問意欲を測定する調査は非常に難しいが、**イベント参加の印象として捉える**ことは可能である。
⇒リピーター化には必要条件と言える

初訪問者が経験したことは...
(次ページ)

初訪問者の再訪意欲

(リピーター化)

1/2

初訪問者は、どのような要素があると再訪意欲を高めるのか。



【このアンケートから見てきた具体的な改善ポイント】

- ✓ 再訪意欲を、そのままストレートに解釈できない。しかし、**印象が良い**ということはリピーター化に重要な要素と捉えて継続測定していくべきと考えるが、その質問方法などは検討が必要。
- ✓ 初訪問者が**再訪したくなる要因は、今回のアンケートではとれていない。アンケート実施の際の入り口が広すぎる点**を再設計が必要。
- ✓ 阿南市の何を知ってもらい、体験してもらいたいのか、**地域資源の選択と名称の統一**などを再整備して調査する必要がある。

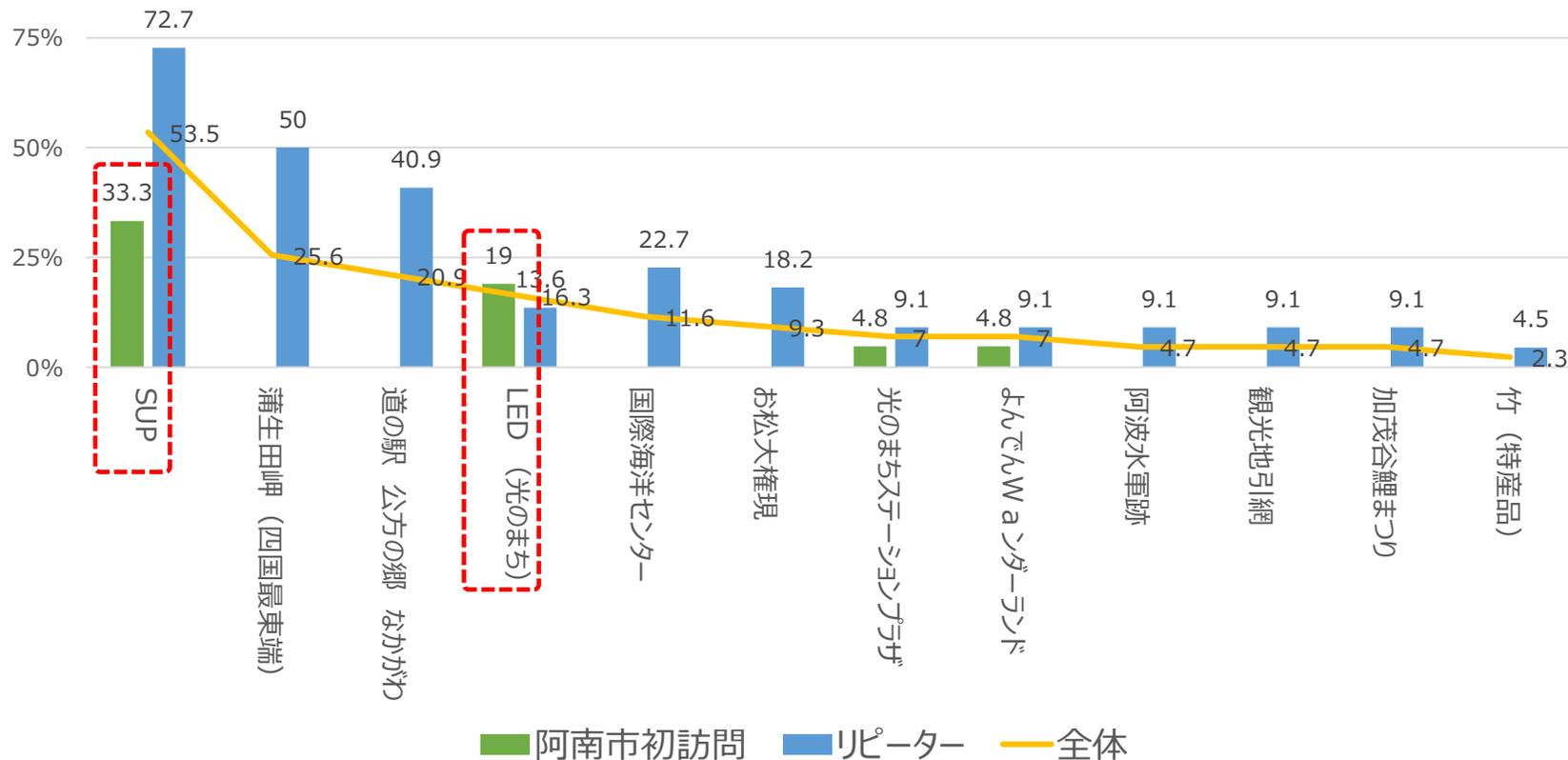
◆ SUP大会参加者アンケート：現在のデータから読み取れることと課題

初訪問者が体験したこと

初訪問者は、**SUP以外ほとんど体験していない**（翌日行く可能性もあるが）
 ⇒しかし、再訪意欲がある
「光のまち」というPRは一定の効果が出ている可能性がある
 ⇒一方で、有名な観光スポットへの誘導が低い ⇒対象を絞るといい点では良いか？

初訪問者の再訪意欲 (リピーター化) 2/2

阿南市の名所の体験(行ったことがある、見たことがある、参加したことがある)



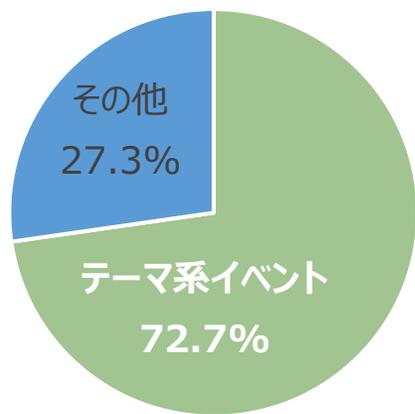
➔ 初めて訪問した人たちに、阿南市の何を知ってもらい、体験してもらおうか？ 政策方向性

◀◀◀ 関係人口創出政策に効く

◆ SUP大会参加者アンケート：現在のデータから読み取れることと課題

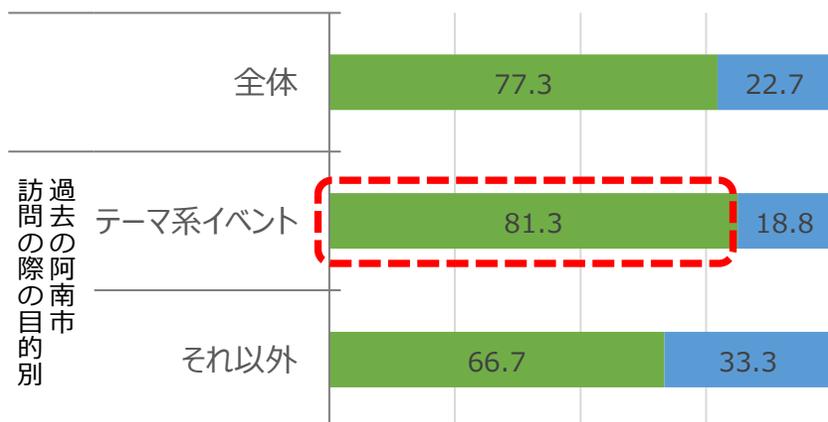
リピーターの地域活動意欲（関係人口のアウトカムについて）

過去の阿南市の訪問目的



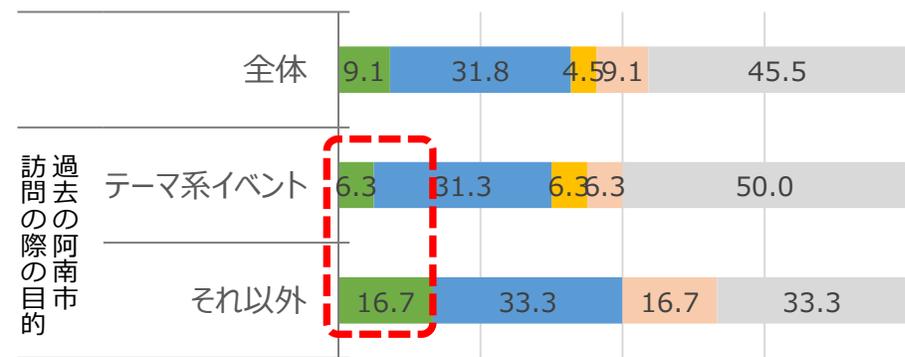
過去の阿南市を訪問した際の目的別 再訪意欲

0% 25% 50% 75% 100%



過去阿南市訪問時の目的別 移住意向

0% 25% 50% 75% 100%



- 移住したいと思う
- 移住を考える時には、候補地になると思う
- あまり移住したいとは思わない
- 移住したいとは思わない
- 現時点ではわからない



テーマ型イベントの参加者はリピート率は高いが、移住意向はそこまでではない

リピーターの関係深化 1/2

今回の訪問が2度目以上を対象にリピーターの関係深化を分析する。



- 【このアンケートから見てきた具体的な改善ポイント】
- ✓ リピーター、関係人口などの概念を、最終的な政策の方向性に合致させ、アンケートの設問で**分類を明確にする必要がある**
 - ✓ 地域貢献意向の設問は、今回国交省のものを利用したが、**阿南市に合った項目で実施する必要があるのではないか、検討が必要**
 - ✓ 地域貢献意向が強くなる要因、**イベントの特性には何があるか検証できるようにしていく必要がある。**
(仮説：環境意識の啓発など有効では?)

※過去の阿南市訪問の目的について「スポーツ、芸能、グルメイベントの参加」と回答した人を今回に限り「SUP関連」と読み替えて分析した。
(本アンケート分析は、今後の調査方針を検討することが主目的であり、結果の統計的有意性を判定することが主目的ではないため。)

◆ SUP大会参加者アンケート：現在のデータから読み取れることと課題

リピーターの地域活動意欲（関係人口のアウトカムについて）

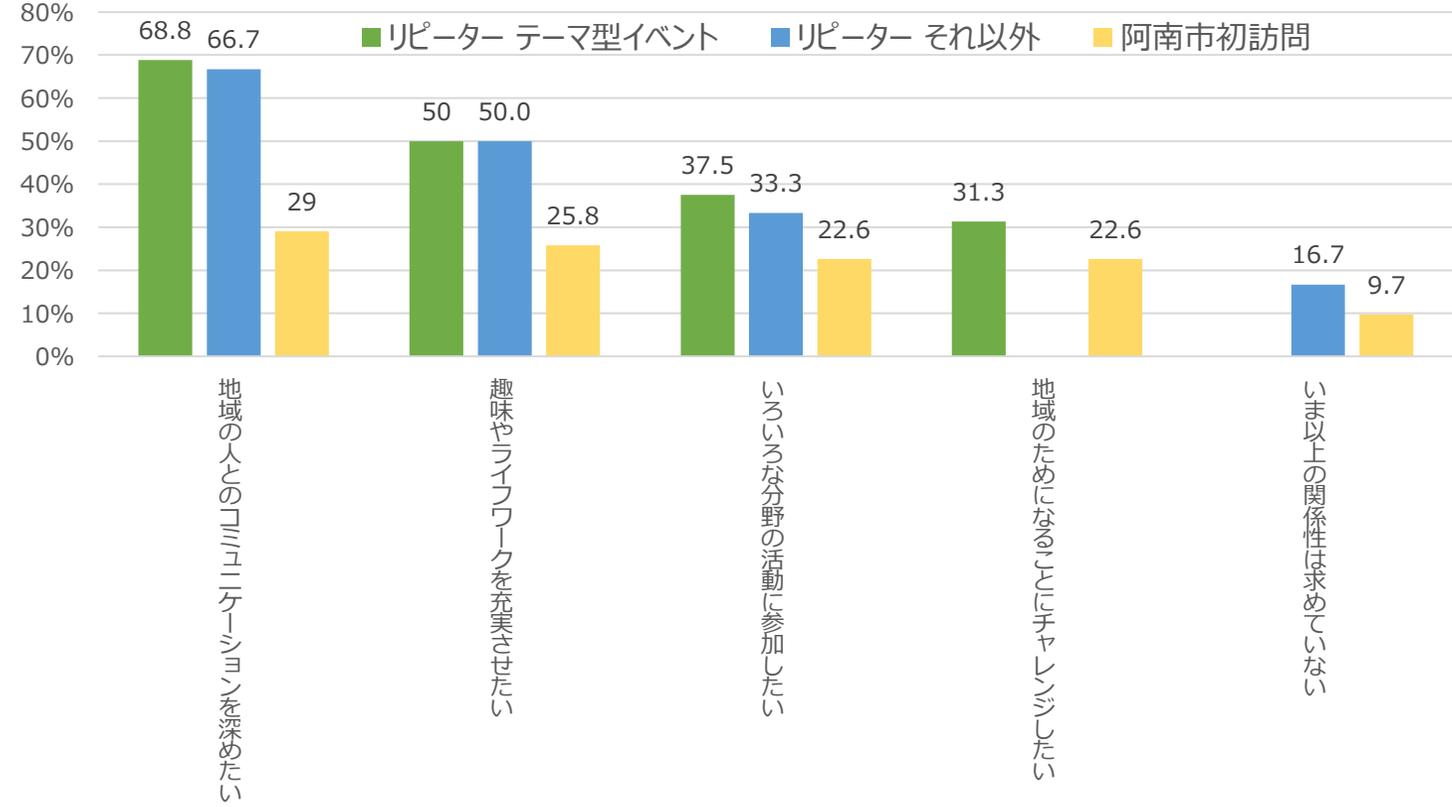
リピーターの地域貢献意向

リピーターの地域貢献意向が高い傾向がみられた

リピーターの関係深化 2/2

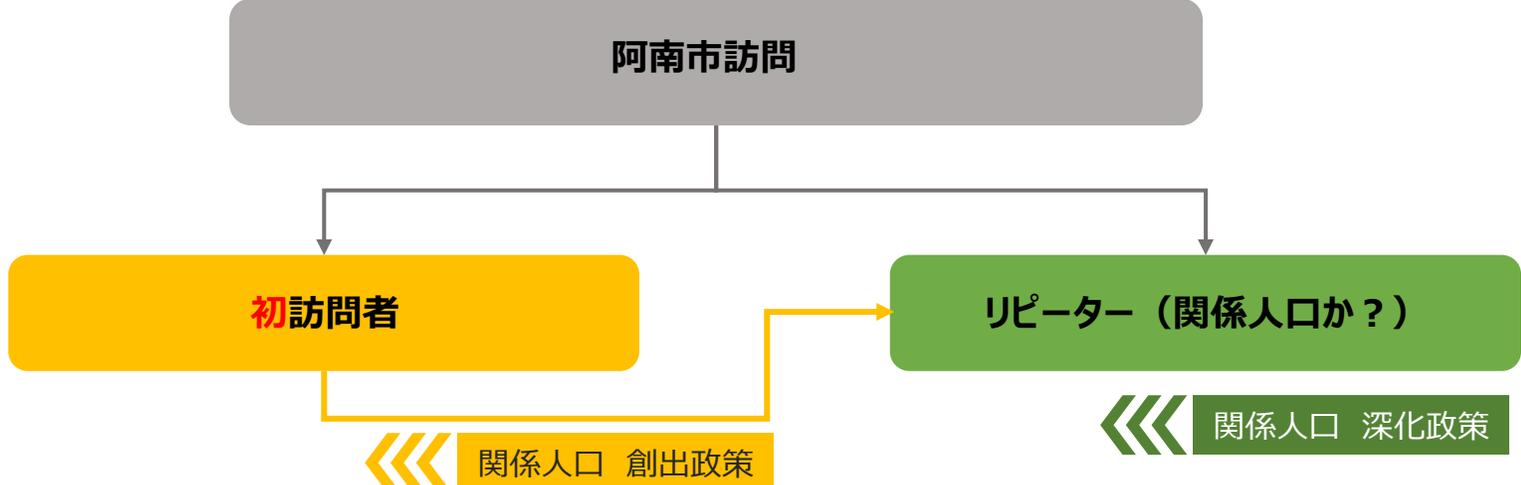
今後の阿南市との関わりについて

※各項目で「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4段階で聴取し、「あてはまる」とした回答の割合



➡ テーマ型イベント、特に今回のSUPイベントは、地域貢献意向の強い人が多い傾向
⇒関係人口の深化に効いている可能性がある

関係人口深化政策に効く



➤ どの対象者との関係を構築するべきか？
 (政策的方向性の明確化)

- 観光系
- 交流系 (学生など)
- 就農希望系
- その他

対象
属性の洗い出し

➤ 関係が深化する要因は何か？
 ➤ 対象別に、関係深化後のアウトプットを決めた方が良い (ex.移住、地域貢献など)

- 移住希望者
- ESCAなどテーマ型応援団
- 観光系リピーター
- その他テーマ型イベント

対象
属性の洗い出し

今後の調査の方向性

【調査体制などに関する検討材料】

- 関係部署での統一的な意識
- 中長期で指標検討を継続していく
- データの回収方法の統一化と工夫

【関係人口政策に関する検討材料】

- 「関係人口」を、阿南市として再定義
 - ESCAなど、登録された応援隊への調査
 - ・関係人口深化者の地域貢献の状態把握が必要
 - ・関係人口深化者の深化の要因
 - ・関係がどの程度深化しているのか？
 - ・関係が深化した要因には何があるか？
 - ・登録の障壁は何があるか？
 - ・今後の関係深化意欲など
- ⇒この調査の他政策への転嫁は可能か？

関係人口に移住してもらおう、地域活動参加してもらおう

⇒関係人口「**深化**」政策

人との付き合いを、中長期で継続する関係を築く

狭く・深く

非関係人口に関係人口になってもらおう

⇒関係人口「**創出**」政策

地域を知ってもらい、体験してもらおう

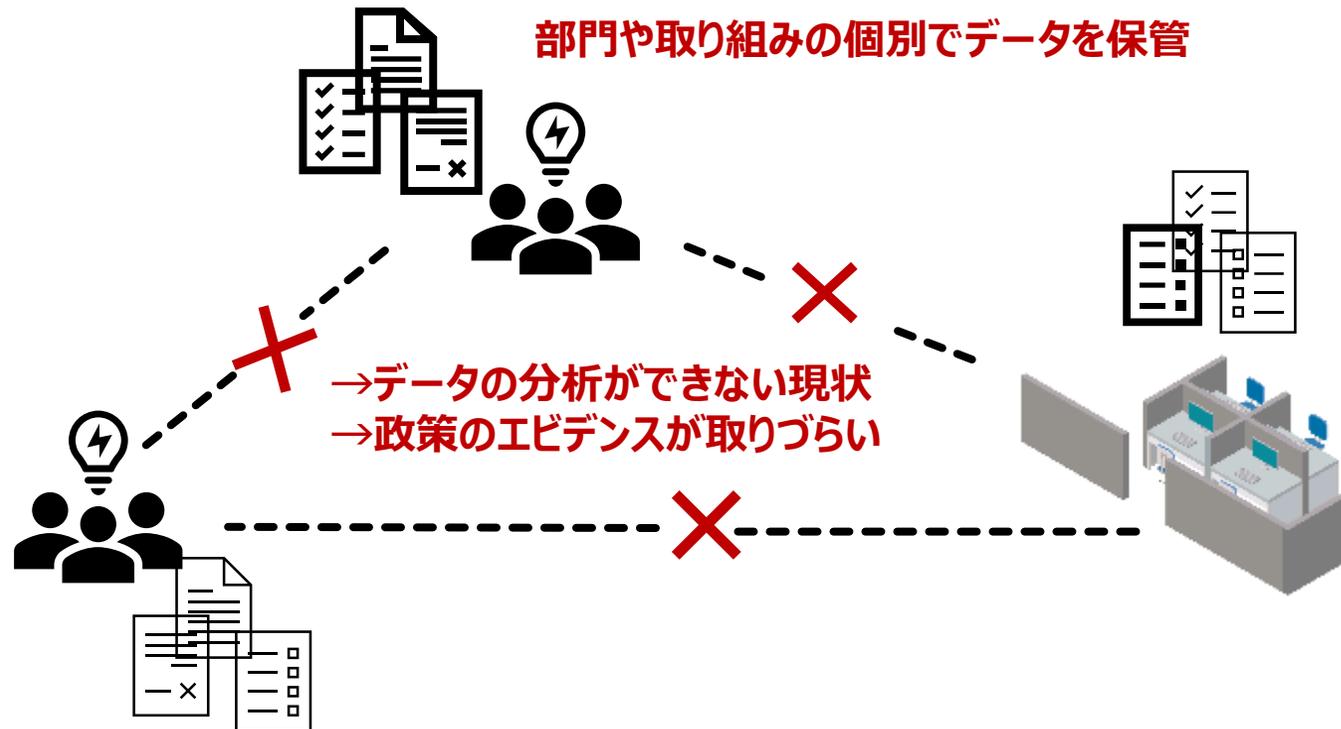
広く・但しある程度効率よく

移住政策からみた「関係人口」の政策

③ 戦略策定に必要なデータ整備（提案）

【現状の課題】

- ✓ 個別単体での情報収集→イベント単位、プロジェクト単位で情報収集を行っている
- ✓ 経年の積み上げデータが存在しているものの、分析可能なデータ形式で保管されていない（加工が必要）
- ✓ 属人的な指標の設定になってしまっており、政策ゴールとの紐づけがやや乏しい



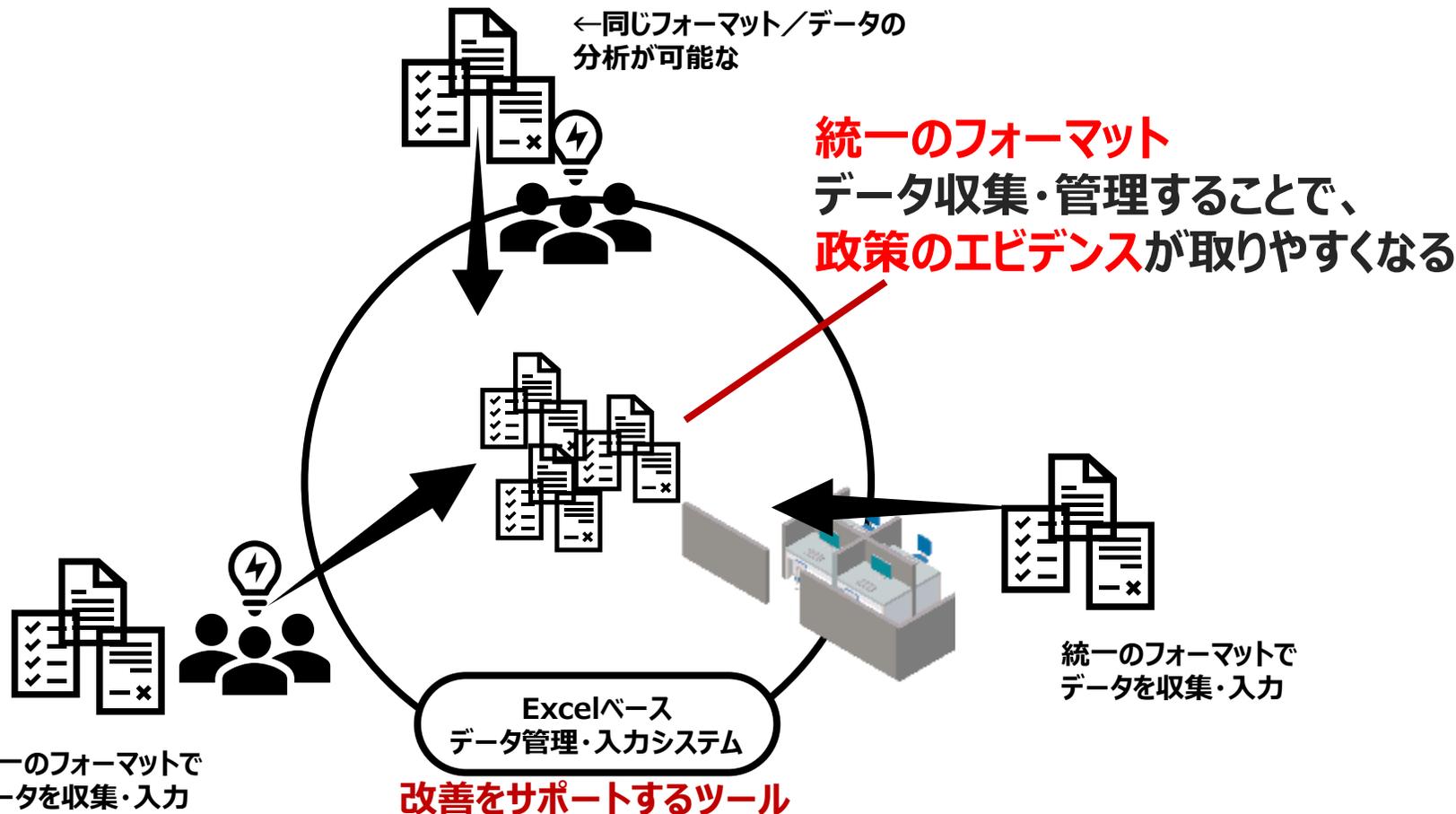
簡易的な入力フォームで
統一的な指標と入力

- 大規模なシステムは必要なし
- エクセルのマクロで実施
- 各職員のPC端末上で操作可能に
⇒そのためには、若干の仕組みが必要だが
まずは「人口政策」に関わる部署のみで実施
- 地域外の人情報を集約する

③ 戦略策定に必要なデータ整備（提案）

【改善案】

- ✓ データの入力端末は各部署、各自で行えるが、収集データを一括に集める
- ✓ 収集するデータの指標を、**政策ゴールと紐づけて**庁内の一定の統一を図る



簡易的な入力フォームで 統一的な指標と入力

- 大規模なシステムは必要なし
- エクセルのマクロで実施
- 各職員のPC端末上で操作可能に
⇒そのためには、若干の仕組みが必要だが
まずは「人口政策」に関わる部署のみで実施
- 地域外の人情報を集約する



スタートは
部署間データ連携の前に

「外部人材データ」という
他部署とはやや異なる
データを保有している
「シティプロモーション」部門内の
データ統一化を目指す 22

③ 戦略策定に必要なデータ整備（提案）

簡易入力フォーム イメージ①

<入力画面イメージ>

簡易的な入力フォームで
統一的な指標と入力

データエントリー・集計画面

問合せ状態		移住を検討している地域	G	複数選択	データ格納
相談日付		<small>移住検討地域の移住支援団体からの情報希望提供有無</small>	希望する		
問合せ方法		興味のある情報	就農	複数選択	
問合せ方法：その他	その他	興味のある情報：その他		その他	DB表示
性別		移住先での希望就労形態	農業		
年齢		移住先での希望就労形態：自由業		自由業	
職業		移住先での希望就労形態：その他		その他	集計分析
職業：その他	その他	移住先での希望物件	賃貸：集合住宅		
郵便番号		希望する広さ	80㎡		
家族構成		希望の間取り	3LDK		
家族構成：その他	その他	提供資料	A	複数選択	
出身地		提供資料：その他		その他	
同行者	複数選択	対応者	西郷隆盛		
移住希望時期		相談内容	なし		
移住先として関心ある場所	複数選択	対応状況	順調		保存終了
集計開始日	2021/1/1	集計終了日	2021/6/30		

③ 戦略策定に必要なデータ整備 (提案)

簡易入力フォーム イメージ②

<データベースシートイメージ>

管理コード	問合せ状態	相談日付	問合せ方法	その他	性別	年齢	職業	その他	郵便番号	家族構成	その他	出身地	同行者	移住希望時期	移住先中心場所	移住検討地域	情報提供希望	興味ある情報	その他	移住先希望理由	自由業	その他	移住先希望物件	希望広さ	間取	提供資料	その他	対応者	相談内容	対応状況	UI表示
	新規	2021/2/28	その他	コメント	男性	39	会社員 (正社員)		101-0001			東京都	子ども 親	2022/12/1			希望する			農業			賃貸・集合住宅	80㎡	3 LDK			西郷隆盛	なし	順調	UI表示
	新規	2021/2/28	その他	コメント	男性	39	会社員 (正社員)		101-0001				子ども 親	2022/12/1			希望する	就農	農業				賃貸・集合住宅	80㎡	3 LDK	A		西郷隆盛	なし	順調	
	新規	2021/2/28	その他	コメント	男性	39	会社員 (正社員)		101-0001			福島県	子ども 親	2022/12/1		市街地	希望する	就農	農業				賃貸・集合住宅	80㎡	3 LDK	A		西郷隆盛	なし	順調	検索
	新規	2021/2/28	その他	コメント	男性	39	会社員 (正社員)		101-0001			福島県	子ども 親	2022/12/1		市街地	希望する	就農	農業				賃貸・集合住宅	80㎡	3 LDK	A		西郷隆盛	なし	順調	
	新規	2021/2/28	その他	コメント	男性	39	会社員 (正社員)		101-0001				子ども 親	2022/12/1		市街地	希望する	就農	農業				賃貸・集合住宅	80㎡	3 LDK	A		西郷隆盛	なし	順調	解除

簡易的な入力フォームで
統一的な指標と入力

<集計・分析結果イメージ>

UI表示

保存終了

区分	男性	女性	母数
人数	35	27	62
比率	56.5%	43.5%	100.0%

区分	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	母数
人数	4	18	15	13	8	4	62
比率	6.5%	29.0%	24.2%	21.0%	12.9%	6.5%	100.0%

